

地域連携推進会議 議事録

会議名	令和7年度 第1回地域連携推進会議
開催日時	令和7年11月11日(火)14時30分から16時30分
場所	洛西ふれあいの里療護園 中央棟ダイルームおよび南棟サークル室
参加者	構成員1 (福祉に知見がある方：元大学講師 元法人職員) 構成員2 (地域の関係者：民生委員) 構成員3 (家族：参加なし) 構成員4 (女性利用者：A様 B様) 構成員5 (男性利用者：C様 D様) 施設職員 施設長 副施設長 その他の利用者 15名
添付資料	①レジュメ ②洛西ふれあいの里パンフレット ③令和6年度事業報告
記録	施設長 木村耕司
準備	<p>構成員1・2へ近年の利用者の障害状況・支援の取り組み、社会参加の状況などをお伝えした後、本委員会の趣旨と役割を伝えた。</p> <p>次に施設内の見学を行い、ダイルームの活動中の利用者へ委員会の説明をし、希望者4名の利用者の暮らしぶりの調査と暮らしたい場所への意見聴取をしていただいた。</p> <p>(施設利用者が皆、障害の重度化や、地域の支援体制のなさから入居されており、地域移行の確認をしても、地域の受け入れ態勢が未だ未整備であることも構成員1・2の方へは、事前に説明済みである)。なお、入所者には1月前より掲示にて取組実施の案内を行っている。</p>
1. 開会	<p>(中央ダイルーム)</p> <p>施設長より、利用者へ会議趣旨の説明</p> <p>この取り組みは、入所施設やグループホームなどの施設が、地域の方と交流をもち、生活の場を広げることをめざし、また、施設の取組について透明性を確保するための会です。</p> <p>施設では、支援者側・利用者側立場の違いがあるので、日頃より配慮はしていても、気づかない部分もありますので、忌憚なく委員の方へお伝えくださいますと幸いです。</p>
2. 参加者の自己紹介	<p>(中央ダイルーム)</p> <p>構成員1 学識経験者・構成員2 民生委員による自己紹介および挨拶</p>

3. 利用者生活等での聴取（サークル室および利用者居室）

構成員1から構成員4のA・B氏に施設での暮らしぶりや、希望する将来の暮らしについて尋ねられる。

A氏（70代）

今の生活について、施設に住んではいるが、月2回は自費でガイドヘルプも利用し外出をしている。今後はもっと外出の機会は増やしたいが。まだ、感染者対策のための外出回数の制限はある。将来については、兄に聴かないとわからない。

B氏（60代）

（言葉でのコミュニケーションが難しい方）

以前、施設から行った観光旅行の写真を持ち出して来られる。旅行に行きたいという意味ですかと尋ねると強く頷かれる。

将来については、ひとり暮らしなどの希望はしないとのこと。

構成員2から構成員5のC・D氏に施設での暮らしぶりや、希望する将来の暮らしについて尋ねられる。

C氏（50代）

ここでの暮らしで困ることはない。車いすでどこでも移動できるし、欲しいものも手に入る。職員はいつでも親切に話を聴いてくれる。

自分のわがままも通してくれる。ご飯もおいしい。自分としてはここで暮らしたい。

D氏（50代）

ご飯は確かにおいしいし、生活にもある程度、満足はしているが、他の利用者に対して感じるのは、職員（支援者）のゆずりあいの気持ちは必要と思う。

4. 閉会 会場：（施設長室） 参加者 構成員1・2 施設長・副施設長

構成員1

入所施設の中で、利用者主体で様々な取り組みをしていることが理解できた。

今回、施設を回る中で、話しかけてこられた利用者に高次脳機能障害の症状でお困りの方もいた。様々な入所者に対しての支援について、今後も期待している。

構成員2

コロナ以前は、施設内に隣接するデイサービスで、喫茶ボランティアとして参加していた。今回、懐かしい入所者とも挨拶し、覚えて下さっていた。外部からは見えなくとも入所者は活動的であること、自己主張がはっきりされていることが良く解った。

施設の活動について、しっかりとされていることから、安心されている様子も、民生委員の会議で報告したい。地域としても引き続き出来ることがあれば協力したい。

以上